



上げに転じる 一時 149 円台前半 豪ドルは買われる

17 日午前の東京外国為替市場で、円相場が上げに転じている。10 時半すぎには 1 ドル=149 円 33 銭近辺と前日 17 時時点と比べ 11 銭の円高・ドル安水準をつける場面があった。17 日午前の日経平均株価が一時 200 円超下落するなど日本株の上値が重く、「低リスク通貨」とされる円には買いが増えた。10 時時点は 149 円 53～54 銭と前日 17 時時点と比べて 9 銭の円安・ドル高だった。

10 時前の中値決済に向け、市場では「目立った偏りはなかった」(国内銀行の為替担当者)との声が聞かれた。17 日発表される 9 月の米小売売上高などを見極めたいとして国内実需筋の売買は拮抗し、今のところ円相場を方向付ける材料とはなっていない。

円は対ユーロで上げ幅を広げている。10 時時点では 1 ユーロ=162 円 41～43 銭と、同 22 銭の円高・ユーロ安だった。ユーロは対ドルで小動きで、10 時時点では 1 ユーロ=1.0861～1.0862 ドルと同 0.0021 ドルのユーロ安・ドル高だった。

オーストラリア(豪)ドルが買われている。10 時すぎに対米ドルで一時 1 豪ドル=0.67 米ドル近辺、対円では 1 豪ドル=100 円 10 銭台に水準を切り上げた。9 時ごろは対米ドルで 0.66 米ドル台後半、対円が 99 円台後半で推移していた。17 日発表の 9 月の豪雇用統計で雇用者数が前月比 6 万 4100 人増と市場予想を上回った。豪準備銀行(中央銀行)の利下げが遅れるとの見方から豪ドルには買いが活発となった。



原油が反発、短期的な戻り期待の買い金は続伸

17日朝方の国内商品先物市場で、原油は反発して取引を始めた。中心限月の2025年3月物は1キロリットル6万6290円と前日の清算値に比べ300円高い水準で寄り付いた。前日まで続落していた反動で、短期的な戻りを期待した買いが優勢となっている。もっとも、中国の景気減速懸念が根強いほか、イスラエルとイランの衝突への過度な警戒感が後退していることが上値を抑えている。

米エネルギー情報局(EIA)の週間の石油在庫統計を17日に控え、国内市場では米需要動向を確認したいとして様子見の雰囲気も強いという。

金は続伸している。中心限月の25年8月物は1グラム1万2899円と前日の清算値を34円上回る水準で取引を始めた。16日夜の夜間取引で一時1万2937円まで上昇し、中心限月としての最高値を連日で更新した。16日の米長期金利の低下を背景に、金利のつかない金先物の投資妙味が増すとの見方から買いが続いている。

白金も続伸している。中心限月の25年8月物は1グラム4810円と前日の清算値を33円上回る水準で寄り付いた。



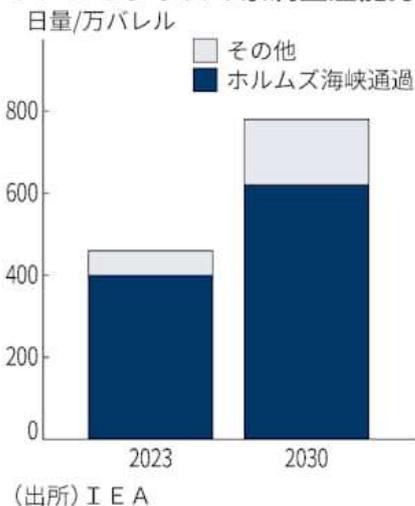
IEA「原油・LNG 余剰生産拡大」 30 年予想、低価格で安定か

国際エネルギー機関(IEA)は 16 日、2024 年の世界のエネルギー市場に関する報告書を公表した。2030 年までに中東やロシアなどの余剰生産能力が急拡大するほか、液化天然ガス(LNG)の世界生産能力も余剰になると予測した。20 年代後半は化石燃料の生産が豊富で安価な時期になるとみて、その間にクリーンエネルギーへの投資を促した。

世界各国で現行の環境・エネルギー政策が続くシナリオの場合、石油輸出国機構(OPEC)とロシアなどで構成する「OPEC プラス」の原油の余剰生産能力は 2030 年に日量 780 万バレルとなり、23 年比で 320 万バレル増える。余剰生産能力があると原油急騰や天災・紛争の際に機動的に出荷できるため安定供給につながる。

もともと、エネルギー安全保障の不透明感も高いとした。余剰生産能力のうち 8 割はホルムズ海峡を通過する必要があるためだ。中東やロシアの地政学リスクは依然として高く、安定供給につながる低炭素技術への投資を呼びかけた。

OPEC プラスの余剰生産能力

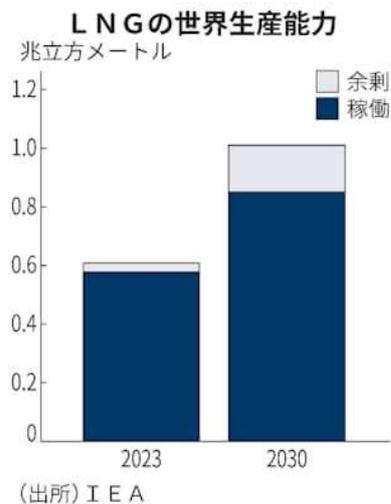


世界最大の原油輸入国の中国はこれまで需要をけん引してきたが、電気自動車(EV)の導入増加でガソリン消費の伸びに急ブレーキがかかる。

EV が増える北米の原油需要も減少に転じ、欧州では減少ペースが加速。この結果、30 年までに世界の原油需要はピークを迎え、35 年には 23 年(日量約 9900 万バレル)の水準に戻る。LNG については世界需要の増加が続くが、米国やカタールなどの生産能力の伸びが上回る。30

年の世界需要は 23 年比で約 1450 億立方メートル(約 1 億 700 万トン)増加する一方、生産能力は同じ期間で約 2700 億立方メートル(約 1 億 9900 万トン)増加する。この結果、余剰の生産設備が 30 年には約 1600 億立方メートル(約 1 億 1800 万トン)に上るとみる。23 年の 5 倍の規模だ。

ウクライナ紛争後に LNG 需要が急増した欧州連合(EU)の消費は下落に転じるほか、中国の増加ペースが鈍化する。東南アジアとインドが成長をけん引する。



世界の電力需要は急増する。人口増、経済成長、エアコンや EV、工場・商業施設などの需要が増えるため。35 年まで毎年、世界で日本 1 カ国分に相当する電力需要が上積みされる。

この結果、30 年の世界のエネルギー消費に占める化石燃料の割合は 75%となり、現在の 80%から低下する。IEA は世界のエネルギーが産業革命以降は「石炭・石油の時代」だったのが今後は「電力の時代」になるとみている。

もっとも、中東産油国や石油メジャーのエクソンモービルは化石燃料の消費が底堅く推移するとしており、消費国で構成する IEA とは対照的な見方をしている。

IEA によると、世界の温暖化ガスの排出削減ペースは十分ではなく、2100 年に産業革命前に比べて 2.4 度上昇する。環境規制や消費行動の変化が一段と重要になる。

50 年に排出ゼロを達成するには 35 年まで従来の 2 倍のペースで再生エネや原発といった排出ゼロの電源を建設する必要があるという。

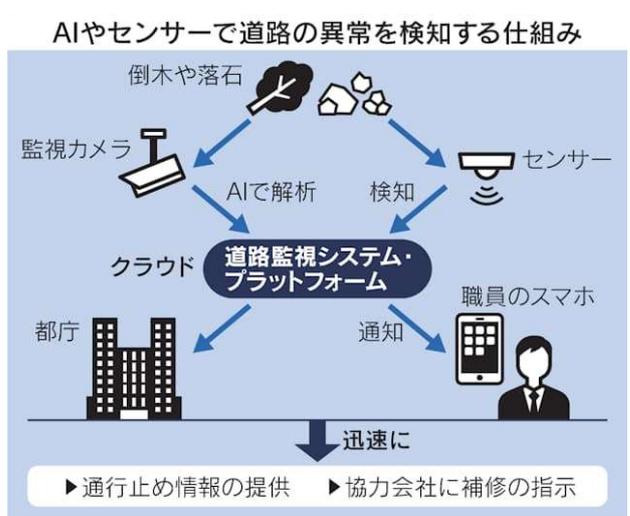


東京都、AIで道路異常を自動検知 復旧短縮へ 26年度導入

東京都が道路管理の分野でデジタルトランスフォーメーション(DX)を強化している。土砂崩れや浸水を検知するセンサーなどの設置を進める一方、2026年度から監視カメラの映像を人工知能(AI)で解析し、倒木や陥没などの異常検知を始める。災害の激甚化や技術系職員の減少を見据え、迅速な復旧につなげる体制を整える。

6月の夕暮れ、都が管理する奥多摩町の国道で倒木が道をふさいだ。奥多摩交番から通報があり、録画映像を確認すると倒木が映っていた。倒木の発生から通報までは20分かかった。

都は崩落のリスクがある多摩地域の山あいの道路や、冠水の恐れがある23区内のアンダーパスに100台近くの監視カメラを設置している。AIカメラを採用すれば、異常を自動で検知し、担当職員のスマートフォンに即座に通知が届く。導入に先立ち、24年度からは監視カメラの映像を使って、AIの精度向上のための機械学習を始めた。小型センサーも活用する。24年度は土砂崩れの恐れがある急傾斜地に、斜面のふくらみなどわずかな動きを検知できるセンサーを約70個設置する計画だ。センサーは電池や通信装置が一体になっており、5年程度使える。



周辺に比べて土地が低く浸水の恐れがある場所には8月、冠水センサーを6カ所に設置した。センサーは1個数万～十数万円で、カメラ(数百万円)より大幅に費用を抑えられる。機能を検証し、面的な被害の把握に役立つ。

DXの推進は、従来の仕事の流れを効率化する狙いもある。監視カメラの映像やセンサーからの情報は、1月にクラウド上で構築した「道路監

視システム・プラットフォーム」で一元的に管理する。映像はこれまで専用端末からしかアクセスできなかったが、職員がスマートフォンやタブレットから見られるようになった。

道路の異常を現場からスマホで登録できるほか、オンラインマップから異常場所や通行止めの区間を簡単に書き込める。これまでは現場から電話で建設事務所にいる職員が聞き取って対応していたが、システムの導入で通行止め情報の発表にかかる時間を約1時間短縮できたという。

都道や都が管理する国道は総延長 2241 キロメートルにおよぶ。東京と台湾の直線距離に匹敵する長さだ。異常の発生から対応までの時間がかかるほど、通行車両や人に危険が生じるリスクは高まる。8 月には港区でゲリラ豪雨による浸水が起きるなど、災害は激甚化している。

将来は技術系職員の減少が見込まれる。土木職の 24 年度の受験倍率は大卒(一般方式)が 1.5 倍で、14 年度の 3.7 倍から大きく下がった。東京都の梅津嘉忠・道路情報推進担当課長は「人手が減るなかでもDXによってリアルタイムで被害を把握し、迅速な初動対応ができる」と話している。



Jオイル、非可食性植物「テリハボク」から航空燃料成分



Jオイルミルズは 15 日、テリハボクの種子から再生航空燃料(SAF)に必要な成分である炭化水素を含む油の生成に成功したと発表した。大豆や菜種など食用の植物は近年バイオ燃料の原料として需要が高まり、価格が上昇している。食用に適さないテリハボクから SAF を生成することで、本業である食用油脂事業の収益安定につながる。

植物油から炭化水素を製造する企業などと組んで、24 年度中に SAF の生成に向けた実証実験の開始を目指す。実用化するにはジェット燃料としての利用に必要な品質規格などを満たす必要がある。

テリハボクは沖縄などに分布する亜熱帯植物で、胚珠の中に油分を 40～50%含む。乾燥地や塩分濃度の高い土地でも育つため、食料用の農地を使わずに栽培できる。Jオイルはテリハボクを安定的に確保するため、試験栽培にも取り組む。



週間原油コストの推移

週間原油コストの推移

	期間	原油相場		為替レート (▲は円高)		円建て原油コスト	
		ドル/バレル	前週比	ドル/円	前週比	円/ℓ	前週比
火曜日～ 月曜日	9/3～9/9	74.17	▲4.89	145.47	▲0.47	67.86	▲4.71
	9/10～9/16	72.02	▲2.15	143.51	▲1.96	65.00	▲2.86
	9/17～9/23	74.47	2.45	143.20	▲0.31	67.07	2.07
	9/24～9/30	73.93	▲0.54	144.99	1.79	67.42	0.35
	10/1～10/7	75.69	1.76	147.07	2.08	70.01	2.59
	10/8～10/14	78.76	3.07	149.55	2.48	74.08	4.07
水曜日～ 火曜日	9/4～9/10	73.27	▲5.12	144.75	▲1.65	66.70	▲5.48
	9/11～9/17	72.16	▲1.11	142.82	▲1.93	64.82	▲1.88
	9/18～9/24	74.71	2.55	143.94	1.12	67.63	2.81
	9/25～10/1	73.46	▲1.25	145.06	1.12	67.02	▲0.61
	10/2～10/8	77.21	3.75	147.83	2.77	71.79	4.77
	10/9～10/15	78.04	0.83	149.99	2.16	73.62	1.83

※原油はドバイ、オマーン平均、為替レートは三菱UFJ銀行のTTSLレート